

平成 29 年度第 3 回当別町地域公共交通活性化協議会議事概要

1 開催日時及び開催場所

日時：平成 30 年 1 月 19 日（金） 14 : 55 ~ 16 : 00

場所：当別町役場 第二庁舎 2 階 会議室

2 出席委員

別紙委員名簿のとおり

3 協議会の概要

(1) 次第 3 「報告(1)西当別道の駅線の実証運行状況について」

資料 1 に基づき西当別道の駅線の実証運行状況について、事務局より説明し、次のとおり質疑応答があった。

委員：市街地予約型線導入前に運行していた市街地循環線より利用者は多いのか。

事務局：市街地循環線は、利用者低迷後年間 3,000 人程度であった。西当別道の駅線は、3 ヶ月で 1,518 人であることから年間 5,000 ~ 6,000 人の利用を見込んでいる。

(2) 次第 4 「議題(1)当別町地域公共交通網形成計画素案（たたき台）について」

資料 2 に基づき当別町地域公共交通網形成計画素案（たたき台）について、事務局より説明し、質疑応答の後、承認された。

委員：計画期間が平成 30 年度から平成 34 年度までと記載されているが、この期間中に記載内容に変更や追加していく場合、改訂をしていくのか。

事務局：計画の改訂については、PDCA の中で指標や目標値の変更、施設の見直しが必要になってくる。社会情勢の変化も考えられ、協議会の中で協議していく。

委員：当別ふれあいバスの利用者数と JR 利用者数の目標値は、経年変化なのか。

事務局：当別ふれあいバスの利用者数は、過去 5 年間分の増加率を踏まえて設定している。JR の利用者数は、現在バスを利用して JR 駅で乗降している人が 1 日約 200 人程度おり、JR の結節を良くして 400 人程度の利用者を増加させたい。

委員：大学生の利用者は、学部増設により増加傾向にある。この増加率は、反映させているのか。

事務局：学部増設からの実績も含んだ目標値にはなっている。しかしながら、増加率は今後現在の目標値を上回ることも想定されるため、PDCA の中で検証していきたい。

(3) 次第4「議題(2)地域公共交通確保維持改善・事業評価について」

資料3に基づき地域公共交通確保維持改善・事業評価について、事務局より説明し、質疑なく承認された。

(4) 次第5「その他(1)今後のスケジュールについて」

資料4に基づき平成29年度のスケジュールを事務局より説明し、次回開催を2月に予定していることを報告した。

委員：1月10日に商工会の理事会でふれあいバスに関する意見があった。JRは風が強くなるとあいの里公園から石狩太美間で止まることがある。12月も運転見合わせがあり、あいの里から当別まで移動手段はバスかタクシーになる。止まった時だけふれあいバスを増便できないものか。

事務局：JR側の事情で運休又は運転見合わせとなった場合、JR側の代替えで対応と考えている。12月25日は、午後から学園都市線が運転見合わせとなったため、あいの里発4本のバスを運行していたが、最終便で利用者全員が乗車し、運行できた。JRの運休等に合わせたバスの増便等対応は考えていない。

以上